

Kasugaoka J.H.S

明日への扉

アスヘノトビラ

令和元年8・9月号

京都市立春日丘中学校

道徳通信

学校教育目標

『確かな自立・志ある貢献』

早いもので、夏休みが明けてから1ヶ月が経ちました。夏休み明けからは2人の教育実習の学生さんを迎え、教科授業や部活指導、また合唱指導や道徳の授業においてもお世話になった3週間でした。私たちにとっても充実した3週間でしたが、きっとお2人にとっても忘れられない3週間であったと思います。忘れられないと言えば…9月13日に行われた今年の合唱コンクールも忘れられない1日となりました。賞がつくとは言え、どのクラスの合唱も、思いのこもった素晴らしい合唱でした。そんな素敵な合唱ができたことに自信を持ってほしいと思います。

さて、話は変わり…真夏のような暑さも少しずつ和らぎ、朝晩の涼しさからは秋の訪れを感じられる季節となりました。秋と聞いてみなさんは何を思い浮かべますか？勉強の秋、読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋…いろんな「秋」をイメージすると思いますが、それぞれにとって“実りのある秋”であることを願います！



＊－＊－＊－＊－＊－＊－**授業の様子を紹介します**－＊－＊－＊－＊－＊



“心をつなぐバス”

みなさんはバスに乗ったときに、乗客が自分1人だったらどんな気持ちになりますか？運転手さんと2人きりでちょっと気まずいあ…感じる人はいませんか。今回のお話は、バスの運転手さんと2人きりになった主人公の女の子が、運転手さんとのやりとりを通して、どんどん心情が変わっていく、とても温かい内容です。学校生活の中でも「思いやりを大切に」という言葉をよく耳にしますが、どうすることが「思いやり」のある行動と言えるのか考えました。改めて「思いやり」について考えることで、今まで気づかなかったことも考えることができたのではないのでしょうか。ぜひ、これからの生活において、それぞれが考えた「思いやりのある行動」を心がけてください。

《ワークシートより（授業の感想）》 ～友達から言われた温かい言葉とは？～

- ・自分がミスしても「大丈夫！」や「次はいける！」などの前向きな言葉をかけられて、とても嬉しかった。運転手さんのような優しい人が増えてほしい。
- ・困っているときに手をさしのべてくれて協力してくれた。こんな自分でも仲良くしてくれている。
- ・けがをしたときに「大丈夫？」と聞いてくれたのが嬉しかった。心配してくれたことは、個人的に思いやりを感じた。
- ・「ほんまに大丈夫？」と聞かれて大丈夫と言ったときに「ほんまに？」って確認してくれたことが嬉しかった。言葉だけじゃなくて、ちゃんと見てくれているんだなと思った。
- ・失敗したときに「いいよいいよ、この調子でがんばろ」と言ってくれたこと。今まではバスって、ちょっと冷たい感じ早く降りたいと思うときが多かったけど、この話を聞いて自分からバスを明るくしてみたいと思った。
- ・手伝おうか？と言われたこと。言われると心が温かくなるし嬉しくなる。自分もそんな言葉を使っていけるように努力する。



2年生

“今度は私の番だ”

今回の道徳では、「互いに支えあう社会」について考えました。宮城県気仙沼市出身の佐藤真海さんはスポーツが大好きでしたが、骨肉腫という癌を発症し、右足のひざ下を切断、義足の生活となりました。明るい未来が見えずにいましたが、佐藤さんの努力の結果、アテネ、北京と2大会連続でパラリンピックの出場を果たしました。輝かしい活躍のさなか、東日本大震災が起こり、大切な人や家などを失ってしまいました。悲しみは自分だけでなく、周りの人も同じだと考えた佐藤さんはスポーツで笑顔の輪を広げる活動を始めました。みんなは周りの人に何ができますか？クラス、部活動、家、地域…これからも多くの人と出会い、かかわります。自分ができることは何か、少しずつ見つけていってほしいと思います。

《ワークシートより（授業の感想）》

- ・自分から動いてその経験を世界に発信している真海さんは本当に日本の誇りだと思った。
- ・真海さんの人のために行動するその姿は本当にかっこいいと思った。私も人のためになにかをできる、そんな人になりたいと思った。
- ・今の自分にできることは少ないけど、小さいことでも一生懸命やりたい。自分が大人になったとき、人を笑顔にできるような人になりたい。
- ・私が社会に貢献できるのは勉強することだと思う。今、たくさん勉強して、良い職業についてみんなを助けたい。
- ・大きなことはできないから普段の生活から、周りの人を困らせないようにしたい。自分が頑張っているいろんなことに挑戦しているのを、支えてくれている人たちに見てもらえるようにする。



3年生

“周りの人に支えられて”，“心から信じあえる友を”

夏休み明けの道徳では、目前にひかえていた合唱コンクールにむけて「協力し合える関係づくり」「真の友情」というテーマに2週連続で向き合いました。悲しい過去から人との関わりを避けるようになった主人公・苑子に対して、そっとしておくことがやさしさだと思っていたクラスメイトたち。ところが合唱コンの取組をきっかけに、積極的に苑子を仲間に入れようと働きかけます。だんだん苑子も心を開くようになり…。「お互いを尊重し合い、思いやる気持ち」を忘れずに、私たちも合唱コンを成功させるための“作戦”を考えました。さらに、真の友情を築くためには、思いやりの心だけでなく「本音で語り合うこと」が大切なのではないかと考えを深めました。そうしてむかえた合唱コン本番では、お互いを信じあい熱い思いのこもった歌声が響いていました♪
来月のフェスティバルでも、クラスの創意工夫をこらしたイベントを期待しています！

I 
my friend



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・自分のクラスにも歌いたくない人がいると思うし、緊張もあるだろうけれどみんなで協力したい。
- ・生きていくには協力が必要だと思う。自分一人では超えられない壁を協力することで超えていきたい。
- ・本当の友達とはどのようなものか、改めて考えることができた。また、みんなが考える友達同士の間で大切なことが何か、知ることができた。
- ・たった一言で友達を励ましてあげることができる。でもその反対に、友達を傷つけてしまうこともあることを改めて知り、言葉をていねいにつかうことが大切なのだと思う。